

あびつだより

第233号

編集・発行
〒292-0451 ☎35-2488
君津市末吉128
小櫃公民館

小櫃の人口	
男	2,237人(-16)
女	2,230人(-17)
計	4,467人(-33)
世帯数	2,031戸(±0)
(令和6年7月末(4月末比較))	

小櫃公民館開館50周年を盛り上げよう!

1974年12月20日に開館した小櫃公民館は、今年開館50周年を迎えます。記念事業として行われる、様々なイベントをご紹介します!

○記念式典

日時 10月26日(土)10時

場所 小櫃公民館 講堂

小櫃地区文化祭の1日目に行われます。主な内容は次のとおりです。

①「小櫃公民館のあゆみ」映像上映

開館してからの50年を振り返る特別映像を上映します。

②「小櫃の未来」作文発表

50周年記念誌に掲載予定の『小櫃の未来』12才が考える『小櫃の未来像』の一部を子どもたちが発表します。

③小櫃公民館のマスコットキャラクター発表・表彰

小櫃小学校や自治会回覧などで募集を行ったマスコットキャラクターの最優秀作品の発表及び表彰を行います。

○ORAGA(おらが)市

日時 10月27日(日)9時

場所 小櫃公民館 駐車場・中庭

小櫃ならではのてづくり市場、「おらが市」を文化祭の

わたし流・公民館の使い方

公民館開館50周年記念連載として、公民館を日常的に活用している方の利用方法を紹介します。

初回は、久保島恵里さん(木更津市茅野)、お子さんの悠斗くん(10歳)・禾慧ちゃん(2歳)にお話を伺いました。

○小櫃地区に関わりを持ったきっかけは?

―恵里 出身は埼玉県で息子が1歳の時に木更津市に引っ越してきました。日常的に遊びに行ける場所を探し、近くの公民館へ通っていました。活動のタイミングが合わないことも多かったんです。そんな中、ご近所さんから「コアラーム」(小櫃保育園内)を教えてもらい、通い始めました。コアラームには、馬来田方面から来ているお母さ

らも多く、地域の人も仲間良くなれたので、開いている日は毎日のように通い、子どもも友だちと遊んでいました。

―悠斗 お外遊びをしたり、ハロウィンの仮装をして遊んだのが楽しかった!

○小櫃公民館との出会い

―恵里 コアラームに通ううち、小櫃公民館の事業「ママ&キッズ ハッピーパーク」(現在は子育てサロン「おびつな」)を知り、参加するようになりました。最初の頃は、地域の人のつながりを求めて学級に参加していましたが、子どもが大き

くなってきた今では、自分の学びのために通っています。

―悠斗 学級やサークル活動以外でも公民館を利用することがあります。娘が保育園のお友だちと一緒に公園で遊ぶ約束をしていたのですが、雨降り、外では遊べなくなりました。そこで、使

い勝手にもよく知っている小櫃公民館の館内で遊具を借りて遊ばせてもらいました。

○公民館のお気に入りポイント

―恵里 職場(三田)からも近く、使いやすいこと、それと落ち着くところですね。出かけるのが好きで、公民館巡りをしていたことがあるのですが、小櫃がいちばん落ち着きますね。古いけれど古いき

の良さもあると感じます。

―悠斗 電車が好きで、小櫃公民館の機関車※(SL)に



また、三田出身の教育学博士・篠田義明さんの講演会やおびつ里山コンサート「1月26日(日)」の実施も予定しています。詳細は『おびつだより』やチラシなどでお知らせをします。

○菅原智大さん特別講演会

2日目に開催します。

日時 11月2日(土)13時

場所 小櫃公民館 講堂

「ラトリエドゥアンティーク」オーナーパティシエの菅原智大さん(小櫃出身)をお招きし、講演と給細工の実演を行います。講演会終了後は、有志によるカフェの出店と焼き菓子、生ケーキの販売も行います。

○小櫃公民館の再整備について

小櫃公民館でも閲覧することが可能ですので、ご来館の際にご確認ください。

電話 0439(56)1378

再整備基本計画は君津市ホームページからも閲覧することが可能です。

『君津市公民館等再整備基本計画』をご存じですか?

君津市では、公民館を軸とした地域の新しい拠点施設について、その役割や規模、再整備にあたっての手法などを取りまとめた「君津市公民館等再整備基本計画」を作成しました。

小櫃公民館の再整備については、これまでもアンケートや市民ワークショップ等により地域のみなさんとの対話を行っており、「君津市公民館等再整備基本計画」では、「豊かなコミュニティのもと安心して住み続けられるまちを創る拠点」をコンセプトにしております。

小櫃公民館でも閲覧することが可能ですので、ご来館の際にご確認ください。

電話 0439(56)1378

再整備基本計画は君津市ホームページからも閲覧することが可能です。

○新しい公民館にあつたらしいものは?

―恵里 子どもが遊べる公園のような遊具や、靴をぬいで遊べる広い和室が欲しいですね。

―悠斗 子どもが集まれる場所にしてほしい。

―恵里 普段、「MaMaエアロ」の活動をしているので、ダンスができる部屋に鏡があるといいと思います。あとはトイレ問題。和式ではなく

今年も夏のお祭りやイベントが各地域で開催されました。取材に伺った行事の様子をご紹介します!

○西原子ども神輿

6月27日(土)

小学生が中心となり、お神輿を担いで西原の集落を巡りました。距離が長い区間では、お神輿を軽トラにラックに乗せて移動します。

子どもたちと一緒にお神輿



お神輿を担いでいる様子

小櫃の動き

を担いだ田中誠一さんは「お神輿は少人数でも担げるように軽く作っていて、子どもが少なくてもみんなが楽しめる方法を考えながらお祭りを続けています」と話してくれました。集落の一軒一軒に「除虫」と書かれたお札を配り、子どもたちは元気にかけ声をそろえていました。

○第11回七夕長谷川ホテル谷フェスタ

7月6日(土)

直前まで雨が心配されましたが、268名が来場し、七夕飾りや模擬店、プレゼントの配布などの催しで多くの人で賑わいました。鑑賞会場の北谷には竹灯籠や光のオブジェが設置され、彩りを添えていました。来場者のアンケートでは、「ホテルをたくさん見られて嬉しかった」「楽しい思い出になりました」と喜びの感想が多数寄せられました。



楽しそうに七夕飾りを作っている様子

○三田サマーフェス

7月27日(土)

当日の様子について、青年会の篠田徹さんにお話を伺いました。

「これまで『納涼祭』と呼ばれていたこのお祭りは、コロナ禍で中止となっていました。が、昨年の再開にあわせて『サマーフェス』に名称を変更しました。

プログラムは、毎年恒例のラムネ飲み競争、輪投げ、花火大会などみんなが楽しめる企画を用意しました。

今は三田に住んでいない方も、生まれ育った実家に戻り、家族みんなでお祭りを楽しんでいるという思いで準備を進めてきました。当日は、大人も子どもも楽しんでいる様子が見られたので良かったです。」

と、思いを語ってくれました。

公民館の茶室には、授乳スペースや小さなお子さんが遊べるおもちゃを用意しています。団体の利用が入っていない場合、当日でも個人利用で使えます。ぜひ遊びに来てくださいね。

○賀恵渚夕涼み会

7月27日(土)



賑わっている会場の様子

会場の自治会館には、ヨーヨーすくい、腹話術、スイカ割り、わたあめ作りなど、たくさんの催しが用意されました。

おびつびと

MUSUBI
公式 LINE

「おびつびと」では小櫃地区在住の、特技や好きなことに取り組んでキラキラと輝いている方を紹介しています。今回は今年6月18日に、訪問美容サービス(MUSUBI)を始めた鈴木奈津子さんにお話を伺いました。

鈴木奈津子さん
(西原二)

訪問美容サービスを始めたきっかけ

もともとは、美容師としてお店で働いていました。20代の頃一緒に住んでいた祖母には「おばあちゃんの髪は私が切つてあげる」と言っていたのですが、仕事が忙しく、実現できずにいるうちに、祖母は肺ガンで入院し、そのまま亡くなってしまったのです。祖母の伸びきった髪の毛を見て悔やんでも悔やみきれない思いでした。そのときの気持ちがない方、外出が困難な方へ



移動美容車内(美容室)の様子

向けたサービスを提供したいと考え、訪問美容の資格を取得しました。その後、40歳の節目を迎えたとき、自分がやりたかったことを思い出し、「今やらなくていつやるの?」と勢いで動き始めました。介護の勉強をしたり、先行事例として県内で訪問美容の仕事をしている人にノウハウを聞いたりして準備を進め、オープンに至りました。

小櫃で開こうと思った理由

小櫃に嫁いで来たとき、田舎だなと感じましたが、騒音だと思っていたカエルの合唱が今では全く気になりませんし、季節の移ろいをご近所さんからいただく野菜や山菜で知るなんて素敵だなと思っています。そんな小櫃に少しでも貢献したいと思いました。また、お年寄りが多いので需要があるのではと考え小櫃でお店を始めました。お店の名前「MUSUBI」は、人と人を結びたいという思いから名づけ、ロゴは自分

考えた。こだわりの移動美容車

移動美容車は、2トントラックを改造し、出入り口には電動の昇降台、車の中には手すりを設置しました。座席の鏡は、角度の調整ができますし、車椅子に座ったままでもカットからシャンプーまでこなせるよう工夫しています。もちろん、一般の方も普通的美容室と同じような感覚で利用していただけます。また、軽自動車でも個人宅への訪問カットも行っています。せまい場所や、寝たきりの方のカットもご自宅で行います。

仕事をしたいと嬉しい瞬間

訪問先の施設で、カットをしながらおしゃべりをしたり、「ありがとう」と言っていただけののが嬉しいですね。ご近所さんがふらっと来て、「歩いて美容室に来れるっていいわ」と言ってくれたときも嬉しかったです。

みんなに伝えたい私の想い

20代のときはお客さんをつきたいスタイルにしたいという気持ちで働いていましたが、30代になって、「本当に必要とされるものを提供したい」という気持ちが高まりました。「運転できない」「外に出られない」「ない」をなくしたいと思っています。「できないからこのままでいいや」と諦めるのではなく、誰もがずっと綺麗でいてほしいと思います。周りの人に迷惑をかけてしまうからと美容室に行くのを諦めている人を、ハッピーにしたいです。

小櫃振興会通常総会および講演会が開催されました

6月22日(土)に4年ぶりとなる対面での総会にあわせ、石井宏子市長を招いての講演会も開催されました。講演の内容は『君津市総合計画』を主軸に、地域の独自性に重きを置いたまちづくりについてのお話でした。

小櫃振興会会長の柳井範佳さんは「振興会の役割として、地域の経済的振興に寄与するのはもちろんですが、子どもたちの郷土愛をいかに育んでいくか、ということに注力しなければと感じています。小櫃で育った若者たちには、やはり地元にとどまっていきたい。そのために、どうしたら

小櫃地区防災講座を実施しました!

6月16日に小櫃地区自治会連絡協議会と公民館共催で小櫃地区防災講座を開催しました。

講座では、危機管理課から、能登半島地震後、被災地からの要請を受けて災害用トイレトレーラーを派遣したこと、現地の様子について報告がありました。このほか、過去の災害時において誰が救助したかの割合でみたとき、そのほとんどが自力脱出、家族、友人・隣人であり、日頃の付き合いや交友関係が大切であると解説がありました。

厚生課が説明した避難行動要支援者の支援制度も共助の力によるところが大きく、自治会長と民生委員が中心となって地域支援者と連携して支援が必要なる方の安否確認や避難支援を行っていきます。

後半では、君津市赤十字奉仕団による一次救命処置の講習も行い、心肺蘇生とAED操作の方法を学びました。

また、市からの情報発信は、防災無線やメール、LINE、かずさFMなど多数ありますが、新たに防災アプリ「君津

市防災情報」が増えました。災害はいつ起こるかわかりません。この機会に家族で備えを進めていきましょう。

参加者の声 「災害が起きたら役に立ちそうです。備えは大事です。救急救命、AEDの学習はためになりました」(50代女性) / 「君津市が防災関連の取り組みを積極的に進められていることを知り安心した。市が用意したツールを市民がどう使いこなすかが問題と思う」(50代男性)

▼一次救命処置は、こちらのホームページから学ぶことができます。(日本赤十字社)

▼防災アプリについてはこちらから!



一次救命処置講習の様子

編集後記

コロナがら類に移行し日常生活が元に戻り、各地区で色々なイベントが行われて賑わいを取り戻してきました。これから秋に向けて予定されている、たくさんの方の行事が楽しみです。

8月には南海トラフ巨大地震注意の情報が発表され、いっどこで災害が発生するか予測できない状況です。

「防災対策は日頃の備えから」で家族、自分を守るために避難場所、備蓄用品、非常用品等を確認し、防災対策をしてきたいですね。(M・H)



コロナ禍の間は中止や規模を縮小されて行われていた日伯交流。5年ぶりのブラジル訪問となりました。7月26日(金)から8月6日(火)にかけてブラジルを訪れた子どもたち7名の感想を紹介します!

5年ぶりのブラジル訪問 第23回訪伯使節団にインタビュー

コナ禍の間は中止や規模を縮小されて行われていた日伯交流。5年ぶりのブラジル訪問となりました。7月26日(金)から8月6日(火)にかけてブラジルを訪れた子どもたち7名の感想を紹介します!

言葉が通じなくても、ジェスチャーで思いを伝えたりして、心が繋がったと感じて嬉しかったです。

藤原 梨緒さん(小櫃小5年) 水族館で初めて見たシロクマはとってもかわいかったです。ホームステイ先では、スマホの翻訳機能を使いながらお話をできて楽しかったです。ブラジルから帰ってくる前に、お世話になった友達に

お手紙を渡しました。日本に帰ってくるのが寂しかったけれど、ブラジルはとても楽しかったのでもた行きたいです。松井 虹瑚さん(上総小5年) ショッピングでは色々なお店を見てまわりました。お気に入りのヘアピンを見つけたら、ブラジルの子が私の代わりにレジでお金の支払いをしてくれました。

ホームステイ先では、手巻き寿司やカレーを作ってもらいました。どれも美味しかったです。みんなが優しくしてくれましたので嬉しかったです。

川島 楓さん(上総小櫃中1年) 別荘では、みんなでトランプをして遊びました。ブラジルの子にトランプのルールを教わったり、ババ抜きを知らない子に教えてあげたりしました。ホームステイでは、ブラジ

ルの子と友達になれたけれど、その分、お別れのときがとっても寂しかったです。ブラジルの子とLINE交換をして日本に帰ってきてからもお話しをしています。

川島 楓さん(上総小櫃中1年) 最初は緊張したけれども海で遊んだり別荘でトランプやかくれんぼ、折り紙をして遊んだりしたのが楽しかったです。ブラジルにいる間は一緒に遊んだ子とまた会えると思って帰ってきたら会えないって思ってたたん、ブラジルから帰ってくるのがとても寂しくなりました。でも楽しかったです。

牧野 蒼雅さん(上総小櫃中2年) 最初はブラジルの人たちの明るさとフレンドリーさに驚きました。ホームステイ先の人たちはみんな優しくかったです。

鳥海 蒼介さん(高校1年) 父、兄、姉も訪伯した経験があり、「楽しかった」と聞いているので行こうと決めました。最初は少し緊張しましたが、ブラジルの人たちがフレンド

ストロガノフというシチューのような料理が美味しくて印象に残っています。ブラジル訪問は自分にとつて、本当にいい経験になりました。楽しかったのでみんなにもおすすめしたいです。

2025年1月にはブラジルからの使節団が小櫃を訪れます。ホームステイ先を募集する予定なので、皆さんもブラジルの人たちとの交流に挑戦してみませんか?